

ま ち の 話 題

豊岡

柳まつり

さあさ踊ろよ
はやしに乗って!!

8月1日と2日の2日間、柳まつり実行委員会主催による「柳まつり」が豊岡駅通りなどでにぎやかに開催されました。

1日の豊岡おどりでは、子ども33連と大人35連の約3,200人が、色とりどりの衣装に身を包み、「ヤッチャ、ヤッチャ」の掛け声と共に踊り狂い、沿道を埋め尽くした見物客から歓声が上がっていました。また、今年も、京都府長岡京市から、長岡京音頭保存会のメンバー127人も踊りに初参加しました。

2日の花火大会では、円山川河川敷から約2,000発の花火が打ち上げられ、豊岡の夜空を鮮やかに彩っていました。



▲約3,200人の踊り参加者と見物客が豊岡駅通りを埋め尽くした

城崎

下駄リンピック in きのさき

たくさん下駄を倒すぞ!

8月7日、城崎温泉街の夢ひろば（木屋町小路）で「下駄リンピック in きのさき」が開催され、多くの人でにぎわいました。

この催しは、城崎温泉観光協会が主催で「城崎温泉夏物語」と題して、7月19日から8月31日までの44日間、パフォーマンスショー、紙芝居、ライブなど多彩なイベントを繰り広げているものの一つです。子どもらは、並んだ下駄を玉を投げて倒す下駄ラックアウトや下駄ボウリングに挑戦して、下駄を倒し、景品をもらって喜んでいました。

参加した中島侑希さん（滋賀県・小学4年）は「下駄がたくさん倒れて楽しかった。また城崎に来たいです」と話していました。



▲下駄ラックアウトに挑戦し、玉を投げて下駄を倒す子どもたち。いくつラインがそろうかな

竹野

第11回三原高原ハスマつり

都市との交流から生まれた
“安来節”のステージ

7月27日、「第11回三原高原ハスマつり」が竹野町三原の特設会場で開催され、美しく咲いたハスを愛でたり、野点やステージイベントを楽しむ多くの人でにぎわいました。

ステージイベントでは、三原区と長年親交のある大阪府在住の「安来節保存会関西支部」の支部長や安来節全国チャンピオンの方など4人による楽しい踊りや唄、さらに、障害者ガイドヘルパーの交遊亭楽笑さん（高槻市）による手話落語などが披露されました。

途中で豪雨に見舞われたものの、地域と都市との交流から生まれた楽しいステージに、三原高原は笑顔一杯の時間が流れていました。



▲安来節保存会関西支部の方々による踊りが披露された

まちの情報などがありましたら、秘書広報課広報広聴係まで連絡ください。

日高

博物館の裏側を探検しよう

扉の向う側にわくわくドキドキ

8月3日、但馬国府・国分寺館で、「博物館の裏側を探検しよう」を行いました。

子どもたちは、普段入れない収蔵庫や研究室で古代の刀や銅鐸、木簡などを見たり、土器の破片を赤外線カメラで観察するなどの体験に、目を輝かせていました。

また、探検後の「宝探し」では、隠された7個の勾玉をすべて見つけることができました。武田祐輝くん(小学3年)は、「歴史が好きだから参加した」と話し、細間 萌さん(小学6年)は、「将来は考古学者になりたい」と夢を語っていました。

夏休みの有意義な一日となりました。



▲但馬国府・国分寺館で、施設の説明を聞く子どもたち

出石

大きく立派な松になってね

「ひょうご元気松」を記念植樹



▲松の苗を植えた後は、木を守るカバーもつけます

7月27日、小坂小学校の児童8人が、三木放鳥拠点のコウノトリのヒナ2羽と伊豆人工巣塔のヒナ1羽の愛称決定を祝って、出石町大谷の「コウノトリ営巣の森」に「ひょうご元気松」を記念植樹しました。

児童たちは、植樹後、三木放鳥拠点に移動し、ヒナ巣立ちを祝う会で、愛称・由来を発表。三木の2羽の愛称は、地名から「みつちゃん」「きつちゃん」とし、伊豆の1羽には、1羽でも元気に育ってほしいと、「いつちゃん」と名付けました。

同校では、生き物調査やビオトープづくり、コウノトリ育む農法など、コウノトリがすくすく育っていきける環境づくりを進めています。

但東

中畑山ひまわりまつり

ヒマワリがいっぱいどれを摘み取るのかな?

8月9日から17日までの9日間、但東町畑山の春のチューリップまつり跡地約1・1ヘクタールで、中畑山花の会による「中畑山ひまわりまつり」が開催されました。

ヒマワリは、ハイブリッドサンフラワーと呼ばれる少し小ぶりの品種で、約70万本が畑一面に咲きました。畑内には、お盆の帰省客などたくさん家族連れが訪れ、自由にヒマワリを摘み取ったり、ヒマワリ迷路を歩いたりしていました。同会代表の山本民夫さんは「たくさんの方にお越しいただきうれしいです。地元の活性化のためにも続けていきたい」と話していました。



▲ヒマワリ畑の中を歩き、自由にヒマワリを摘み取る家族連れ